



## 佐藤 松美

SATOU MATSUMI

1965年 柏崎市出身

2017年 フラワーエディケーショナルジャパン  
資格取得コース終了

プリザーブドフラワーやアーティフィシャルフラワー、ハーバリウムなどの講師として活躍する佐藤松美さん。実は学生の頃からスポーツが大好きで部活は陸上部、社会人になるとバレーボールやエアロビクス、ウエイトトレーニングなど、水泳以外はほぼ全部やったというくらい、身体を動かすことが好きだった。

花とのきっかけは17年前、妹の友人がアーティフィシャルフラワーの教室を始めると聞き、知り合いだからと気兼ねすることなく参加を決めた。アーティフィシャルフラワーに触れるのはもちろん初めてだったが「やってみたら楽しくて。集中して花を挿しているのはとても良い時間だった。意外に自分に向いているのかなと感じた」。完成した作品はそれほどうまくなかったと苦笑するものの、「自分でもこんなふうに見えるんだ」という驚きと発見、完成した喜びや達成感が得られたことはとても貴重な出来事だった。その後もアーティフィシャルフラワーを続けた佐藤さんはだんだんとのめり込み、プリザーブドフラワーにも興味を持つようになった。

プリザーブドフラワーは生花を薬品に

つけて水分や色を抜き、染色するなどの特殊な加工を施すことで鮮やかな花色を長期間に渡って保つ加工花のこと。生花は枯れてしまうので苦手だったが、プリザーブドフラワーなら枯れることもなく本物の生花を使っているためリアルな花の雰囲気が出せる。これはいいなと思い、まずは通信教育で勉強して「プリザーブドフラワー2級技能資格」を取得した。

その後、プリザーブドフラワーの教室を探して3年ほど通ううち、資格取得のコースを進められた。気が付けばアーティフィシャルフラワーをきっかけに花と出合ってから10年目となり「かたちとして何か自分の中に残したい」と資格取得に挑戦することを決め、半年後にフラワーエディケーショナルジャパン認定の講師資格を取得した。

初めは仕事にしようとは思っていなかったという佐藤さんだが、資格取得を機に最初にアーティフィシャルフラワーを教えてくれた先生の手伝いをするようになった。昨年1月に、独り立ちをしてはどうかと薦められ「フィオーレ」と名付けたサークルを立ち上げた。

その後のコロナ禍の影響から思うように活動をスタートできなかったが、贈り物などの制作依頼や「くらしのサポートセンター北条」の講師依頼など、少しずつ活動を始めている。

飾る場所や相手の好みに合わせ、アーティフィシャルとプリザーブドの両方を自在にアレンジして仕上げていくのが、そのどちらも学んだ佐藤さんのスタイル。「同じ材料を使っても、作る人の個性や感性によって全く違う雰囲気の作品ができあがる。そこが魅力です」と笑顔を見せた。



お問い合わせ

✉ [siam.mmta.shade-326@docomo.ne.jp](mailto:siam.mmta.shade-326@docomo.ne.jp)